

《蘇州日本人学校教育目標》

未来に向かい 明るく 元気で 心豊かな子どもの育成

平成30年 5月31日

【発行者】

蘇州日本人学校
校長 中西太加夫

中学部修学旅行・宿泊体験学習～学びあいと成長～



5月に3つの宿泊学習を実施しました。小学部5年生の東方緑舟への宿泊学習、中学部1, 2年生の南京、鎮江への宿泊体験学習、3年生の西安、敦煌、蘭州への修学旅行です。中国の歴史と文化を肌で感じ取り、現地の人々との出会いから多くのことを学びました。その見聞や感動を仲間と共有できたことは、一生忘れられない思い出になったと思います。

宿泊を伴う体験学習では、ふだんの学校生活では見られない大きな発見、成長があります。いずれも体験学習を多く取り入れることで、児童生徒自らが主体的に学ぶ学習として意

義のあるものだったと思います。5年生にとっては、小学部高学年としてたくましく成長した2日間、中学部1, 2年生は友だちのすばらしさを発見し、学年を越えた縦のつながりが深まった3日間でした。また、中学部3年生は自主性を磨き、最上級生としての自覚と行動力が見られた5日間でした。現地での様子を学校ホームページや学年ブログ等（学年別にパスワード配付）で発信したことにより、家庭でのお土産話のきっかけになったと聞いています。

蘇州日本人学校ならではの宿泊行事を通して共有した学びを、これからの学校生活の様々な場面で活かしてほしいと思います。

今年度2回目の避難訓練 ～ 火災を想定した近隣企業協力による訓練5/23(水) ～

本校では、安全教育の一環として避難訓練を年間6回行っています。4月の地震想定に続き、5月は職員室付近からの出火を想定し、緊急放送後、グラウンドに全校避難しました。学校からの通報を受け、近隣の日系企業の担当者の方も駆けつけてくださり、協力体制を確認することができました。災害時の学校、家庭、地域の連携は、子どもたちの大きな安心感へつながります。総領事館や現地公安、近隣企業の支援をいただきながら、安全な学校づくりをすすめていきます。



日本から渡ってきた種～受け継がれる日中友好のアサガオ～

日中友好の朝顔を今年も育てています。今週、5年生が理科の授業で種まきをしました。成長する過程を全校児童生徒で観察したいと思います。職員室横に緑のカーテンができ、花を咲かせてくれる日が今から楽しみです。

※ 日中友好の朝顔について

清王朝最後の皇帝溥儀の弟である愛新覚羅溥傑、浩夫妻が育てていた朝顔に由来します。戦争によって離れ離れになっていた夫婦が、長い年月を経て再び共に暮らせるようになった1961年、浩夫人とともに日本から中国北京へ渡った種が現在も受け継がれているものです。本校では6年前から大切に育て、花を咲かせた後、種を翌年に受け継いでいます。留園、拙政園、寒山寺や中国国内の日本人学校、日本各地の博物館などでも育てられ、朝顔から日中友好の大きな輪が広がっています。